



ドラフト1位

甲子園スター

将来有望高校生

実力派大学生

即戦力社会人

隠し玉&変わり種

野球太郎 ストーリーズ

ドラフト指名を勝ち取った 専門学校野球部の隠し球投手!

楽天 10位

西口 直人 (甲賀健康医療専門学校)

楽天育成 4位

木村 敏靖 (履正社医療スポーツ専門学校)

最速152キロの木村敏靖に最速149キロの西口直人。関西地区の快速投手2人はプロ入りの夢を諦めず、専門学校の野球部からプロの世界へと巣立っていった。

(取材・文=谷上史朗)

◎木村敏靖／3年目の勝負

履正社医療スポーツ専門学校が持つ履正社学園でGMを兼ねるのは森岡正晃監督。PL学園出身のうちにコーチ、大阪桐蔭でも部長経験を持つ森岡監督が木村敏靖との初体面で感じたのは際立つ身体能力の高さだった。高3の春が終わった頃に一目見て「いいバネを持っている。素材的にはPL、大阪桐蔭で見えてきた一級品にも負けない」と見込んだ。

木村は真剣な野球は高校までと考えていた。しかし「森岡先生の話聞いてもう少しやってみよう」と、履正社医療スポーツ専門学校入学を決めた。なお御所実業時代の夏の成績は「1、3年の時がベスト16。2年が初戦負けです。まずまず勝っていると思っただけ」。奈良は2回戦から登場して一つ勝つとベスト16。だから3年間で2勝です」と笑った。3年時は3番ピッチャー。森岡監督は投手・木村に魅力を感じつつ「足と肩があり、打つ方が早く使える」と判断。野手起用を先行させた。「大学だったら、僕もゆつくり投



木村敏靖 (きむら・としやす)
176センチ76キロ／右投左打。1995(平成7)年9月14日生まれ、奈良県葛城市出身。小学時代は新庄ハッピーボーイズ、中学時代は天理シニア、高校時代は御所実でプレー。祖父、父、兄も高校球児。最速は152キロ。横滑りするスライダーもキレがある。専門学校では4時半起床で無遅刻無欠席。野手としても非凡で、野手指名で検討した球団もあった。

手で育てたかったんですが、専門学校は2年制。外野を守らせ、主に1、3、5番で起用しました」ところが昨夏、進路の話をする

中で木村が「来年はもう一度ピッチャーをやってみよう」と希望を伝えてきた。そこから約2カ月、野手練習の合間に投球練習も混じえ、迎えたのが10月のJABA伊勢・松阪大会。業務で学校に残っていた森岡監督に1本の電話が入った。出てみるといきなり「なにを隠してるんや!」。声の主はPL学園の先輩・中日の米村明スカウトだった。聞けば、センターで出場していた木村が8回からマウンドに上がり、148、150、152キロを出していると。無名

投手の突然の連発にネット裏のスカウト陣も色めき立ったわけだ。ただ、関心を示した球団はあったが、すでにドラフト直前で指名の大枠は決まっている。結果、木村は聴講生として専門学校に1年残り、今年に賭ける道を選んだ。

だが、そこからの1年は順調ではなかった。不安定な投球が続き、今年の4月、阪神との交流戦では打者9人に4安打、5四死球。一死も取れず降板。ここで「ウチはもうない」と引いた球団もあった。森岡監督も「センスの問題や。もうピッチャー辞める」と突き放したが、本人は地道な練習を続けた。日本選手権予選は外野での出場のみで最後まで歯がゆさが残った。